

# 旧都井岬観光ホテル 跡地再開発へ

企業立地調印式が行われました

2月11日、米良電機産業株式会社（宮崎市）と本市において、旧都井岬観光ホテル跡地の再開発に関する企業立地協定を結びました。

米良電機産業は年度内に市が旧ホテルを解体するとして方針を受け、同社を中心とする共同事業体で宿泊施設やレストランなど複合型の観光レジャー施設を整備すると発表しました。2020年4月の営業開始を目指し、従業員60人（パート・アルバイト含む）を地元で新規雇用予定。正式な計画は今後、再開発に賛同する企業で共同事業体を設立し検討していく方針です。

調印後の記者会見で、同社の米良充典社長は「豊富な自然や野生馬を間近で見ることのできる都井岬のよつな所はなかなかない。都井岬を世界に発信し、串間市、串間市民と一緒に頑張っていきたい」と話されま

した。野辺市長は「都井岬の再生は最重要課題の一つ。市としてもできる限りの支援をしていく」と述べました。

都井岬の再開発は、雇用の拡大が図られると同時に地域経済の活性化にも繋がるものと、大いに期待したいところです。



握手を交わす野辺市長(左)と米良社長(右)ら

## 問い合わせ先

商工観光スポーツランド推進課  
☎72-11111（内線267）

# マイナンバー制度に便乗した 不正な勧誘や個人情報の 取得にご注意ください！

談窓口をご利用ください。



《不審な電話などを  
受けたらこちら》

- 消費者ホットライン 188
  - 警察相談専用電話 #9110
- または最寄りの警察署まで

《マイナンバーが含まれる  
個人情報の取扱いに関する  
苦情はこちら》

- 個人情報保護委員会  
マイナンバー苦情  
あつせん相談窓口
- ☎03-6441-3452

# 健康マメちぎ

Health Knowledge

## 『地域包括ケア』への取り組み

「住み慣れた地域で最期まで安心して暮らせる医療をめざして」

### 地域包括ケアとは

現在日本では、高齢化が進み、特に串間市においては高齢者の方が非常に多くなっています。平成28年1月時点での人口は1万8708人、65歳以上の高齢化率40.7%となっており、今後ますます高齢化が進んでいくものと思われま。団塊の世代が75歳となる2025年までは、全体として人口は減少してきますが、高齢者は減少することなくかえって増加します。高齢者に対する対策が非常に重要となってきます。

『地域包括ケアシステム』という言葉を目にしたことがあるでしょうか。最近、医療・介護・福祉に関わる人たちの間では、キーワードになっています。広島県公立みつぎ総合病院の院長を務めた山口昇先生が、昭和50年代以来、御調町（みつぎちょう）で展開した医療と福祉にまたがるケアの実践に与えた名称です。

山口先生によれば、脳卒中などで命が助かった患者さんに対して、生存率を高めるための治療をするのではなく、生活の質（QOL）を高めるためには生活支援としてのケアが医療と同等に重要な役割を果たすという認識にたつて、このような包括的ケアを「地域ケア」として美

現することを実践の指針としました。

『地域包括ケア』とは「介護を要するようになっても可能な限り住み慣れた地域や自宅で生活したいと希望する人が、必要なサービスを受けながら、在宅で自立した生活を続けられるように支えること」です。それを支えるための体制が「地域包括ケアシステム」となります。地域包括ケア圏域は「おおむね30分以内で駆け付けられる圏域」を理想的な圏域として定義されます。

『住まい』と『生活支援・福祉サービス』を土台として、『医療』『介護』『予防』という専門的なサービスが相互に連携しながら在宅の生活を支えていく必要があります。

私が生まれたのは昭和26年（1951年）ですが、その頃は約80%の方が自宅で人生の最期を迎えていました。病院で亡くなる方はわずかでした。その後、病院で亡くなる方が増えていき、1975年には逆転しました。現在では約80%の方が病院などで亡くなられており、自宅で最期を迎えられる方は12%だといわれています。死は誰にとっても避けることができなものです。その最期の瞬間を愛する家族に見守られて安らかに迎えるといふことは、望ましいことだと思えます。

## 串間市民病院での取り組み

串間市民病院は、これまで急性期を担

う病院として、救急患者さんの対応にもあたってきました。入院としては急性期の患者さんのみを治療して慢性期に移行すれば、療養型の病院などに転院をお願いしていました。今後、地域包括ケア病床の導入を検討しています。急性期が終わり症状は落ち着いたらけれども、すぐに在宅へ移行できない患者さんを対象に、スムーズに在宅へ移行できるようにするための取り組みです。その間、十分なリハビリをして在宅での生活に支障のないようしていきます。

さらに在宅医療に取り組んでいます。がんの治療をしていただいても、しばらくは積極的な治療を必要としなくなった患者さんや、高齢や認知症のため意識が混濁してこれまでだった入院が必要だった患者さんをできる限り自宅で見守られるようにしようと考えています。具体的にはそういった患者さんがおられた場合、病院から医師による訪問診療、看護師による訪問看護をして、患者さんができる限り楽な気持ちで自然な気持ちで療養できるように手助けをしています。家族のみならず、子どもさんやお孫さんなどに囲まれることにより元気をもたせられるようになることも多いようです。

私も今年で65歳になり高齢者の仲間入りです。皆さんと共に高齢者を大切にする医療、介護、福祉に取り組んでいこうと考えています。



著：串間市民病院 院長  
黒木 和男 Kazuo Kuroki